

2024 年度事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人きょうと介護保険にかかわる会

1. 特定非営利活動の概要

2024年度は、特定非営利活動法人きょうと介護保険にかかわる会（以下「かかわる会」という）の理念・目的を達成するため、以下の活動を行いました。

- (1) オンブズマン養成事業では、介護保険制度や高齢者問題に関する基礎的なものから専門性の高いものまで幅広くテーマを選び、年間9回の研修会と総会記念講演会を開催しました。
- (2) 「介護・福祉サービス第三者評価事業」では、「伴走者」としての姿勢を大切にしつつ17件の評価活動を行いました。本年は受診希望の時期が年度終盤に集中したため、調査者や審査員のスケジュール調整に苦労しました。調査者、審査員の増員が望まれます。
- (3) 広報・啓発事業では、全8ページの会報を隔月で6回発行しました。活動報告や介護保険関連の情報、会員の投稿など内容の充実をはかるとともに、配布先の拡充をめざしました。また、メーリングリストの登録者も会員の7割に達し、最新の介護関連情報をメール配信できるようになりました。
- (4) 調査・研究のグループミーティングを、研修会の終了後に同会場で開催することにより、参加してもらいやすくなりました。
- (5) 昨年に続き本年も「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」の事務局を担いました。続けてきたシンポジウムの開催は見送りましたが、行政への働きかけに力を注ぎました。

2. オンブズマン養成事業（研修会等開催事業）

(1) 計画の達成度

- ①介護保険制度のオンブズマン養成事業としての研修会事業は、市民目線に立った諸活動ができる専門性の高い人材育成を目指し取り組みました。
- ②研修会は、会員の要望を聞きながら、介護保険制度や高齢者問題に関する基礎的な問題や地域や高齢者のかかえる課題について、いろいろな角度から取り上げました。
- ③研修会では、前年度と同様に講演のあと、会員や一般参加者が小グループに分かれて意見交換を行いました。講演内容の感想を言い合ったり意見交換したりすることで理解が深まりよかったという声も多数あり、一般参加者の入会に繋がるきっかけともなっています。
- ④4月野外研修会：優しくて凜とした施設長のお話、そして介護士フィリピン女性の話もよかった。ユニット型室内の見学が即OKでした。5月：福島原発後の膨大な調査活動は圧巻でした。今までの災害救助には人間尊重の視点が欠如。6月：2022年に当会が実施した地域包括支援センター調査で明らかになった諸課題を、「京都市への提言」としてしっかり受け止めていただいていることが分かりました。7月：民生・児童委員として長期にわたる地域活動の話、特に少年との交流は心にしみました。9月：在宅ケアの要であるケアマネと仲良くするようにと力説されました。10月：経済的な理由で入所する養護老人ホームは高齢者の最後のセーフティネットです。知られざるその実態と課題。11月：株式会社銭形の活気あふれる訪問介護事業所の紹介、地元からは頼りにされています。1月：体操の後、年一度の会員交流お楽しみ会。2月：行政マン、研究者として両



花友いちはら見学会

面から見た介護保険制度の総まとめを展開されました。3月：健康保険証とマイナ保険カードが結びついた背景や図書カード等、諸々の紐付きの事例。以上これらの研修会の詳細は会報、HP、動画で見られます。

- ⑤毎回、チラシを作成し、ひと・まち交流館京都のほか各所に配架。京都新聞まちかど欄、ふれあい欄には毎回掲載を依頼しています。研修会の月平均参加者数は、昨年度とほぼ同じです。

(2) 2024年度研修会一覧

回 数	実施日	テーマ	講 師	会 場	参加者数
第134回	4月30日	野外研修会 特別養護老人ホーム花友いちはら 代表のお話と見学	特別養護老人ホーム 花友いちはら 施設長長伊 温子さん	左京区静市	21名
総会記念 講 演	5月18日	災害と尊厳ある暮らし ～能登半島地震と福島原発事故 から学ぶ～	立命館大学教授 丹波 史紀さん	ひと・まち 交流館 京都	45名
第135回	6月22日	地域包括支援センターを取り 巻く状況と今後の展望	京都市保健福祉局 健康長寿企画課 担当課長 岡克彦さん	ひと・まち 交流館 京都	24名
第136回	7月20日	地域とかかわって25年 ～民生委員の活動を振り返る～	元西京区民生児童 委員 東 秀子さん	ひと・まち 交流館 京都	24名
第137回	9月21日	介護保険制度の賢い利用者になる ために ～介護保険制度だけ でなくケアマネさんとも上手に付 き合おう～	花園大学教授 福富 昌城さん	ひと・まち 交流館 京都	35名
第138回	10月19日	養護老人ホームの役割について ～社会的弱者のセーフティネット として～	宇治明星園 養護老人ホーム園長 尾松 裕之さん	ひと・まち 交流館 京都	23名
第139回	11月23日	訪問介護の現状とこれから ～住み慣れた我が家で過ごすこ とが保障される社会を～	(株)銭形 営業本部長 高橋 弘江さん	ひと・まち 交流館 京都	28名
第140回	1月24日	脳トレ・ストレッチ・すこやか体操 会員交流会	京都市長寿すこやか センター指導員	ひと・まち 交流館 京都	18名
第141回	2月22日	遠ざかる「介護の社会化」の理念 ～年寄りきらいな行く道だ～	元佛教大学教授 折坂 義雄さん	ひと・まち 交流館 京都	32名
第142回	3月22日	マイナ保険証の導入と医療の変 革(DX)について	京都府保険医協会 事務局次長 中村 暁さん	ひと・まち 交流館 京都	22名

3. 介護・福祉サービス第三者評価事業

(1) 介護・福祉サービス第三者評価事業の実施状況

2024年度調査の申込み件数は介護分野16件、障害分野1件、保育分野1件で合計18件でした。今年度の特徴は、同一法人から複数の訪問介護支援事業所（5事業所）の受診があったこと。また、受診された法人のほとんどがリピーターでしたが、新規の法人も1件ありました。

2024年度第三者評価事業 実施一覧(2025年3月31日現在)

No.	法人名	事業所名	主な受診事業	訪問調査日	調査者数	審査日
1	社会福祉法人 宇治明星園	宇治明星園 特別養護老人ホーム	介護老人福祉施設	8月15日(火)	3名	10月15日(火)
2	社会福祉法人 フジの会	モーツァルトしずかこども園	保育園	12月3日(火)	3名	2月15日(土)
3	社会福祉法人 フジの会	特別養護老人ホームフジの園	介護老人福祉施設	2月28日(金)	3名	4月15日(火)
4	株式会社 ミストラルサービス	ミストラル介護センター	訪問介護	11月15日(金)	2名	1月10日(金)
5	社会福祉法人 清和園	吉祥院 老人デイサービスセンター	通所介護	11月22日(金)	3名	1月17日(金)
6	社会福祉法人 不動園	平盛デイサービスセンター	通所介護	4月9日(水)	3名	5月 日()
7	社会福祉法人 はしうど福祉会	京丹後市国民健康保険直営 宇川診療所	通所リハビリテー ション	3月14日(金)	3名	4月25日(金)
8	株式会社 銭形	訪問介護銭形	訪問介護	11月20日(水)	2名	1月21日(火)
9	社会福祉法人 向陽福祉会	小規模特別養護老人ホーム 向陽苑	地域密着型介護老人 福祉施設入所者生活 介護	12月13日(金)	3名	2月22日(土)
10	医療法人 啓信会	ヘルパーステーション リエゾン四条	訪問介護	2月20日(木)	2名	3月26日(土)
11	医療法人 啓信会	ヘルパーステーション リエゾン大久保	訪問介護	2月27日(木)	2名	3月31日(月)
12	医療法人 啓信会	ヘルパーステーション リエゾン健康村	訪問介護	2月18日(火)	2名	3月22日(土)
13	社会福祉法人 清和園	特別養護老人ホーム 吉祥ホーム	介護老人福祉施設	3月25日(火)	3名	5月 日()
14	医療法人 啓信会	ヘルパーステーション 萌木の村21	訪問介護	2月21日(金)	2名	4月2日(水)
15	医療法人 啓信会	ヘルパーステーション リエゾン羽束師	訪問介護	2月19日(水)	2名	3月28日(金)
16	社会福祉法人 長岡社会福祉協議会	長岡京市社会福祉協議会 きりしま苑	訪問介護	1月21日(火)	2名	3月8日(土)
17	医療法人社団 外松医院	外松医院 居宅介護支援事業所	居宅介護	4月11日(金)	3名	5月 日()
18	社会福祉法人 清和園	洛西居宅介護支援事業所	居宅介護	3月17日(月)	2名	4月28日(月)

(2) 調査者のスキルアップについて

- ①調査者のスキルアップのための研修は実施できませんでした。
- ②調査リーダーの養成についての取り組みもできませんでした。

(3) 人材の確保

- ①新規評価調査者養成研修を1名の会員が修了され、調査者に加われました。また介護分野の調査者2名が、保育分野の研修を修了しました。
- ②第三者評価調査者 分野別登録者数（2025年3月31日現在）

介 護	26人
障 害	16人
保 育	13人
児 童	4人

※登録上は左の表の通りですが、実働の人数は介護15人、障害9人、保育9人、児童3人となっています。

- ③審査会委員登録者数 10人

(4) 第三者評価応募事業所の拡大

- ①現在、第三者評価事業の広報は、京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構を通して周知を図るのみで、独自にはできませんでした。
- ②受診実績のある事業所へは、声かけを行いました。（3年毎の受診）。

4. 調査・研究事業

2024年度は、「第9期京都市民長寿すこやかプラン」が決定・実施された時期でした。第9期プランから従来の「高齢者保健福祉計画」と「介護保険事業計画」に加えて「認知症施策推進計画」と「成年後見制度利用促進計画」が一体的に策定され、さらに第9期プランの対象期間には、地域包括ケアシステムの構築期限とされている「2025年」が含まれていることもあり、京都市高齢者施策推進協議会の傍聴を含めて、積極的に情報収集に努めました。また、傍聴で得た検討内容を会報の記事として報告しました。

さらに6月22日、9月21日、10月19日、11月23日、2月22日、3月22日の研修会終了後に、会員の参加を得て、調査研究グループミーティングを開催しました。その中で、「ヘルパー問題」や「居住系」の実態に関する問題、「お一人様の最後を支える」、「安心して死ねる」仕組みや、事業者の実態及び適正な事業のあり方を担保する制度のあり方について、調査・研究をしたいという新たな提案がありました。

5. 広報・啓発事業

(1) 会報の発行

①概要

- ・発行回数：年6回（偶数月）
- ・体裁・ページ数：A4版8ページ
- ・発行部数：各号450部
- ・配布先：会員、介護・福祉サービス第三者評価受診事業所、京都府内77カ所の地域包括支援センター、関係行政機関や関係団体・関係者への送付。ひと・まち交流館京都内の市民活動総合センター、福祉ボランティアセンターの展示書架への配架。

②編集会議

毎月、広報グループによる編集会議を開催しました。奇数月の編集会議では前号の反省点を話し合い、また次号の編集企画について意見交換して、原稿依頼の内容を確認しました。

発刊月（偶数月）の編集会議では印刷原稿についての疑問点や間違いを指摘し、修正を確認しました。編集会議で意見を出し合うことで、より魅力のある内容と見やすい体裁を実現できました。

③掲載内容

理事長による巻頭言、研修会案内や報告、市民ネットワークの活動紹介等、従来からの内容を継続して掲載しました。読者アンケート（2024年2月実施）で多かった「介護保険の基礎知識について取り上げてほしい」という声にこたえ、新企画「知らんと損するお宝情報」として、高齢者サポートやサ高住等について簡単に紹介しました。シリーズ物としては「私の介護体験」「会員リレーえっせい」「シルバー川柳」を掲載しました。

■各号のページ建てと主な内容

号	140	139	138	137	136	135
発行日	2025.02.07	2024.12.06	2024.10.04	2024.08.02	2024.06.07	2024.04.05
1頁	何としても納得できない(梶宏)／目次	三題噺「総選挙・米大統領選・ケアラー支援条例」(梶宏)／目次	平等で平和な社会を望むことは時代遅れだろうか(梶宏)／目次	「死」をタブーにすることはいけない(梶宏)／目次	当事者として発言し、実践する市民でありたい(梶宏)／目次	3・8院内オンライン集会に参加して思う(梶宏)／目次
2頁	1月研修会報告(栗山)	「京都市ケアラー支援条例」の制定・施行にあたって(御礼)(津止)	9月研修会報告(笠原)	6月研修会報告(正木)	総会の概要報告／懇親会報告(正木)	3月研修会報告(栗山)
3頁	新年会員交流会(栗山)／堀田力さん、高見国生さんを悼む(梶宏)	10月研修会報告(梶政彦)	9月研修会報告(笠原)	6月研修会報告(正木)	かかわる会組織・業務担当図／各部門の2024年度事業計画	3月研修会報告・アンケート結果グラフ(栗山)
4頁	特別企画 編集スタッフ一番の推し(小中・栗山)	11月研修会報告(小中)	よりよい介護をつくる市民ネットワークから市長への提言(萩原)	7月研修会報告(吉川)	5月総会記念講演報告(冬木)	2月研修会報告(吉川)
5頁	特別企画 編集スタッフ一番の推し(竹山・冬木・吉川)	11月研修会報告(小中)	介護保険マラソンシンポ・パブリックビューイング報告(正木)	介護保険マラソンシンポ案内・調査・研究グループの参加案内・理事長著書紹介	4月野外研修会報告(萩原)	よりよい介護をつくる市民ネットワークからの報告(梶政彦)
6頁	介護保険ホットNews(冬木)	市民ネットワークと京都市との意見交換会報告(笠原)	知らんと損するお宝情報「介護つき」ってどういうこと？(冬木)	知らんと損するお宝情報“サ高住って何？大丈夫？”(冬木)	知らんと損するお宝情報“話題の高齢者サポート事業”(栗山)	「会報」についてのアンケート結果(冬木)
7頁	私の介護体験(正木)／2月・3月研修会案内	私の介護体験(清水潤)／1月・2月研修会案内	私の介護体験(久田由美)／10月・11月研修会案内	私の介護体験(西村一三)／9月・10月研修会案内	私の介護体験(鈴木正穂)／6月・7月研修会案内	私の介護体験(梶寿美子)／4月研修会・5月総会記念講演案内
8頁	会員リレーえっせい(伊藤博敏)／編集後記(正木)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(高瀬宗次)／編集後記(冬木)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(大島仁)／小栗さんの追悼文(冬木)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(大島仁)／編集後記(竹山)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(藤井伸生)／編集後記(吉川)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(坂野裕也)／編集後記(小中)／シルバー川柳

※主な内容のうち、研修会の詳細は「2.オンブズマン養成事業」をご覧ください。

(2) 研修会の広報について

毎回の研修会チラシの印刷原稿を作成し、外注印刷したチラシを会報と共に発送したり、ひと・まち交流館に配架したりしました。また、京都市福祉ボランティアセンターや京都市市民活動総合センターの情報欄への掲載はスケジュール的にもむずかしく、掲載できませんでした。

研修会チラシの裏面には、かかわる会の入会方法を掲載しました。

(3) ホームページ・SNS・動画の利用

2019年9月より <https://npokaigo.or.jp> のドメインでスタートした会の公式ホームページに研修会の予告、報告、会報の発行について掲載しました。当会の Facebook ページも開設していますが、今のところ情報の更新があまりできていない状況です。

研修会を動画配信して欲しいという会員からの要望に応じて以下の動画を配信し、会員には動画の URL をメールで送りました。

- ・ 6 月研修会「地域包括支援センターを取り巻く状況と今後の展望」
- ・ 9 月研修会「介護保険制度の賢い利用者になるために」
- ・ 10 月研修会「養護老人ホームの役割について」
- ・ 11 月研修会「訪問介護の現状とこれから」

(4) メールによる広報

会員のメーリングリスト登録者は3月末時点で 67 名、会員の約 7 割にあたります。研修会案内や研修会動画、会報等をメール配信しました。事業計画では介護保険についての情報希望者を募り、メールマガジンの可能性について検討するとしていましたが、実現できませんでした。

(5) 啓発活動の具体化

啓発活動の内容や獲得目標について検討するまでに至らず、他の事業担当理事との協議も実現しませんでした。

6. 関係諸団体との連携事業

(1) よりよい介護をつくる市民ネットワーク

昨年に引き続き、当会が事務局を担当しました。本年度はシンポジウムの開催を見送りましたが、2023 年 11 月に開催された「だまっていたらあかん！第 8 回シンポジウム『私たちの求める長寿すこやかプラン ～安心して暮らせる京都にするために～』」での意見を踏まえ、2024 年 8 月 20 日に京都市長へ 7 項目からなる提言書を提出しました。

その後、2024 年 10 月 30 日には、健康長寿のまち・京都推進担当局長の八代康弘氏をはじめ担当職員 5 名の参加のもと、提言書に対する意見交換会を実施しました。また、京都市会各会派との懇談会を開催し、提言書の説明と意見交換を行いました。

さらに新たな取り組みとして、2025 年 2 月 28 日に、提言内容が予算にどのように反映されたかを確認する機会を設けました。この懇談会にも八代局長をはじめ、担当職員 6 名が参加、活発な意見交換が行われました。

今年度の活動を振り返ると、提言の実現に向けた具体的な働きかけを進めるとともに、京都市や各会派との対話を深める機会を持つことができました。今後も、より良い介護の実現に向け、市民の声を反映させる取り組みを継続していきます。



京都市との意見交換会

(2) ケアラー支援条例をつくろう！ネットワーク京都（略称：京都ケアラーネット）

かかわる会も参画する京都ケアラーネットでは、2022 年 4 月から「京都市ケアラー支援条例」の制定をめざして活動してきましたが、2024 年 11 月 6 日、京都市会本会議にて「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」が全会一致で制定されました。（11 月 11 日＝介護の日に施行）

7. 会の運営（事務局）

(1) 会員の状況

2023年度末の会員数は94名でした。この1年間で新規入会者が7名ありましたが、退会やご逝去により、2024年度末の登録会員数は96名となりました。なお、新規入会者のうち4名は、研修会への参加を契機に入会されました。また、本年度より、10月以降に入会された方の会費を半額に減免する制度を導入しました。

(2) 中期計画プロジェクトの提言

当会の25周年の節目に、中期的な課題を検討するためのプロジェクトチームを立ち上げました。笠原副理事長を中心にメンバー4人が、17回の会合を重ねて提言をまとめました。会員の折坂さん、片桐さん、早川さん、ならびに介護事業所管理職の方には、専門的な視点からご意見をいただきました。また、全理事を対象に詳細なアンケート調査を実施し、幅広い意見を集約しました。提言の要点は以下の通りです。

- ・成果測定の基準を明確にし、目標管理を容易にするため、定款の目的を「ミッション（目的・存在意義）」として、分かりやすい言葉で再定義しました。
- ・事業の対象を「市民」「行政」「事業者」の3つに分類し、それぞれの5年後の到達目標を「市民の参加促進」「調査研究と政策提言」「介護サービスの質の向上」というビジョン（理想の姿）として整理しました。
- ・事業推進のための組織体制についても、上記のビジョンに沿った3部門制を提案しました。

事業部門	対象	業務内容	主な事業例
市民参加促進	市 民	複雑な介護保険制度をわかりやすく伝え、当事者として主体的にかかわる市民を増やす	・ 市民向け公開講座の企画運営 ・ 会報、出版物等紙媒体による広報 ・ 多様なメディアを活用した市民に役立つ情報の収集と発信
政策提言	行 政	調査研究の成果をもとに市民の立場から行政に働きかける	・ 調査研究活動および関連セミナーの企画運営 ・ 行政への政策提言、委員会の参加 ・ ロビー活動
介護サービスの質の向上	事業者	介護サービスの質の向上を目的に事業所へ働きかける	・ 第三者評価事業および関連セミナーの企画運営 ・ 事業所間ネットワークの構築 ・ 事業所への情報提供

(3) 事務作業の合理化

会計システムをシンプルなフリーソフトに変更しようと試みましたが、NPO法人会計に準拠したものが見つからず、従来のシステムを継続使用しています。また、文書やスケジュール共有のため、GoogleドライブやGoogleカレンダーの活用を始めましたが、まだ十分に使いこなせていません。

(4) 会員の交流と参画

会員交流の場として、総会および新年研修会の後に懇親会を開催しました。また、事務局を気軽に訪れてもらう機会として、「介護保険8時間マラソンシンポジウム」（9月16日・ケア社会をつくる会主催）のパブリックビューイングを開催しました。さらに、年末には「事務所大掃除＋ミニ忘年会」を実施しました。

(5) その他

- ・ 大阪ガス福祉財団「高齢者福祉助成」によりビデオカメラを購入し、研修会の動画を撮影、会員に配信しています。
- ・ ひとまち交流館 京都4階の福祉ボランティアセンターのロッカーを借用し、プロジェクターなど研修関連の備品等を保管しました。